

たタイプに応じた学習支援を【LDDへの対応例①】

ここでは、第4号「に」で記載した2つのタイプに応じた支援の例を示します。

継次処理タイプ	同時処理タイプ
漢字を覚えさせる時	
漢字を構成するパーツを言語化しながら書いて示す。 (「数」の場合、「こめ、おんなの、いち、ばってん」)	漢字の全体像をとらえてからパーツに分解し、再び組み合わせる。 (「数」の場合、「米+女+女」)
作文を書かせる時	
出来事や思った事を時系列にそって思い出させ、箇条書きにさせる。	テーマに関する写真や絵から思い浮かぶ言葉を線で結び図式化させる。
実験・実習の手順を示す時	
手順表などを使って、1つ1つの活動の流れを順に確認させる。	作業場面の写真を見せながら用具や活動を示し、手順を確認させる。



部分から全体へ

全体から部分へ

